母指探し試験（TLT）

Otakaら（2020）の記述に基づく採点基準・実施記録／正式日本語版ではありません

ID／氏名：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

対象：上肢の固有感覚性定位を診る被検者。被検者自身が動作し、医療職が観察・判定します。固定肢＝位置を他動的に設定する側、探索肢＝反対の母指を探す側。脳卒中研究では麻痺側を固定肢、非麻痺側を探索肢としています。

01 実施の流れ

準備：安定した座位、遮眼用具、記録用紙を用意。痛み・可動域・探索肢の運動機能・指示理解を確認する（安全確認は編集上の実務提案）。

位置設定：探索肢の手を同側の膝に置き、視覚を遮断する。固定肢を多方向へ他動的に動かした後、位置を保持する。開始位置から推測させない。母指先はつまめるように露出する。

動作：視覚を遮断して、固定肢の母指先を反対の手の母指と示指でつまんでもらう。固定肢は力を抜き、動かさない。到達経路、修正、最初に触れた場所を観察する。

条件の比較：Otakaらでは3肢位を同じ順番で、遮眼条件と視覚あり条件で実施。両条件を別に記録する。共通の秒数制限や追加反復回数は、この資料では規定しない。

02 採点基準：各肢位 0〜3（高いほど定位の障害が大きい）

0｜正常	探索肢が固定した母指先へまっすぐ、速やかに向かい、容易につまめる。
1｜軽度	探索する指が固定した母指から数cm離れた所に達するが直ちに修正する、または到達途中で探索肢が揺れる。
2｜中等度	固定した母指の周囲を数cmを超える範囲で探す、偶然母指に触れる、または固定した手や他の指からたどって母指先に達する。
3｜重度	固定肢に全く到達できない、または偶然固定側の腕に触れ、その皮膚をたどって母指先に達する。

「最後につまめた」だけでは0にしません。手・他指からたどる場合と、腕からたどる場合を区別します。図や短い見出しより、この全条件を優先してください。

母指探し試験（TLT）

実施肢位・条件別の記録／3肢位と中央値はOtakaら（2020）の研究手順

ID／氏名：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

03 3肢位：a → b → c の順で記録

各肢位とも前腕中間位・肘屈曲90°。a：肩屈曲0°。b：母指が口の高さになるまで肩を屈曲。c：母指が体幹正中上に来るよう肩を内旋。実際の設定は原論文のFig 1も参照。痛みや可動域制限があれば無理に設定しません。

固定肢：右・左 ／ 探索肢：右・左 姿勢・遮眼方法：_____

肢位	遮眼 0〜3	視覚あり 0〜3	到達経路・接触部位・条件／不成立の理由
a			
b			
c			

遮眼3肢位の中央値：_____（0〜3） ※3値を小さい順に並べた中央の値。
合計点は算出しません。中央値は同論文の解析方法で、TLT全般の必須集計規則ではありません。3肢位が揃わない場合の補完法は確認できないため、欠測を埋めて中央値を出しません。

04 実施できない場合・解釈上の注意

指示理解や探索肢の運動機能、痛みなどで課題が成立しない場合、3に置き換えず、理由を文章で残します。これは編集上の記録提案であり、正式な欠損コードではありません。代理回答は行いません。開眼で成功しても、遮眼結果を上書きしません。

所見・関連評価・生活上の確認事項：

出典・翻訳と利用条件

基礎文献：Hirayama K. Brain Nerve. 2011;63(8):851-860。
直接の翻訳元：Otaka E, et al. PLoS ONE. 2020;15(7):e0236437.
https://doi.org/10.1371/journal.pone.0236437
© 2020 Otaka et al. / CC BY 4.0（https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/）。
変更：手順・採点記述を日本語化し再配置、識別欄・記録欄・実務上の注意を追加。翻訳・編集：STROKE LAB。原著者の承認や日本語訳の妥当性検証を示すものではありません。旧原著や出版社の日本語本文を転載したものではありません。